

## ザポリージャ原発の今

———原発が戦争の道具に———

ロシアによるウクライナ侵攻が始まってから半年経った今も戦況は変わらず、何時終わるか見通しもつかない。そうした中、ウクライナ南部のザポリージャ原発が大きな危機に立たされている。原発が戦争の道具として利用され、成り行きによっては攻撃対象となればチェルノブイリをはるかにしのぐ重大事故につながる恐れが現実のものとなっているのだ。

### ザポリージャ原発とは

ウクライナ南部のザポリージャ州エネルホダルという地区にある加圧水型原発 100 万 Kw、6 基からなり、ウクライナ中央部を流れるドニエプル河の左岸にある。1～5 号機はソ連時代の 1985 から 1989 年にかけて作られ、6 基目は独立したウクライナ国が 1995 年に作った。ウクライナの全電力の約 20%を賄い、ウクライナは勿論ヨーロッパで最大規模の原発である。

### 攻撃対象になったザポリージャ原発

戦争が始まった直後の 3 月 4 日深夜、ロシア軍はザポリージャ原発に爆弾を投下し、この日から原発はロシア軍の管理下に置かれた。ウクライナ人の運転員たちは厳しい監視下に置かれ、1 人はウクライナ側に情報を流した疑いがあるとして射殺された。爆弾は職員の研修施設に当たり炎上した。もし原子炉や原発の管理施設に当たれば重大な事故をもたらした可能性がある。単純計算だが、もし 6 基が爆発炎上すれば広島原爆 5000 発に相当する放射性セシウムが放出・拡散されたであろう。ウクライナはもとより、ロシアもヨーロッパ、更には地球規模の放射能汚染が起こったかもしれない。こうした危険性は当然、誰もが想定出来ることで、世界的な関心と呼ぶようになった。3 月 4 日の爆弾投下についてもロシアは自らの責任を否定し、ウクライナ軍の芝居だと主張したが、誰が信用するだろうか。

### 原発を軍事基地にしたロシア

現在、ロシア軍はザポリージャ原発を軍事基地化し、戦車や装甲車、移動式ミサイル発射装

置などを運びこみ、原発周辺に地雷を設置してウクライナ軍の侵入を阻止して、ここからドニエプル河対岸のウクライナ領に爆撃を行っている。ウクライナ側がここを爆撃できない事を利用してしているのだ。

### 相次ぐ爆撃と大事故のリスク

にも拘らず、ザポリージャ原発周辺には絶えず爆撃が行なわれ、ロシアとウクライナ双方はお互いに相手に責任を擦り付けている。爆撃により原発の送電線 4 本のうち 3 本が切断され、辛うじて 1 本だけが機能していたが、8 月 25 日に最後の 1 本も切断され、原発の全電源が失われた。ウクライナへの電力を遮断し、ロシアが支配するクリミア半島に電気を送る意図があるようだが、万が一ポンプが停止し冷却機能が失われればチェルノブイリを凌ぐ大事故につながる。幸い、ジーゼル発電機による緊急電源が作動し、辛うじて 1 本の送電線が復旧された。こうした危機的な事態にもロシアとウクライナ双方が爆撃は相手だと主張している。

### I A E A の調査

9 月 1 日、国際原子力機関 (I A E A) の専門家らがザポリージャ原発に入った。これはウクライナ・ロシア双方の提案による。I A E A は専門家 2 名を常駐させる意向だが、ロシアは反対している。ウクライナは原発周辺を非軍事地帯にするよう求めているが、ロシアはこれも反対している。今後も行方を注視する。

(2022 年 9 月 4 日 河田)